

新春を迎えて

代表取締役 鈴木英介

皆様に謹んで新春のお喜びを申し上げます。

先期61期の決算は、おかげさまで増収増益に終わりました。

ほぼ50億円の売上げは、

1800人の力によるものです。社会全体の人手不足の中で、

社員の皆様にはご苦勞を掛けたいと思います。危機感をバネに皆

で力を出し、協力した結果です。お客様にも無理を聞いてもら

場面もあったでしょう。私たちように人手たよりのサービス

業にとって、人がいないという事は一番困る事です。

新潟ビルサービスの仕事は、ビルにおいて人が行う業務を守る備範囲としております。ビルの

衛生環境と安全を守るためです。私たちは今、このほとんどを人の手でやっております。

ところが日本の人口は

15年前より減少に転じておりま

す。さらに困ったことは、地方人口の社会減です。人はより良い

仕事を求め、よりよい給料を求め大都市に移動しています。す

でに首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏の人口は日本の全人口の50%を超えています。

地方都市のシャッター街、農村部の限界集落、大都市の地価

高騰と通勤地獄。皆同じ問題なのです。

これは世界でも同じで、都市化は先進国、発展途上国を問わず進んでいます。世界人口は現在80億人を超えたと推定されています。

発展途上国では、電気、ガス、水道などの社会インフラが都市

市にしかなく、仕事も大都市にしかありません。そのため仕事

を求め農村部から都市部に人は流入します。それに気候温暖化

が拍車をかけています。アフリカでは農地の砂漠化により窮乏

した農民が都市に流入してしま

す。

発展途上国の都市が、そのキャパシティ以上に人が集まった時起こるのはスラム化の

問題です。社会インフラの整備が人口の増大に追いつかないのです。その事と難民問題は同じ土俵の上にあると考えてよいと思います。難民問題は国境を越えての都市集中なのです。世界には国境があり、人の移動を妨げています。

つまり富の偏在に、気候温暖

化が拍車をかけています。世界の格差は益々広がり、最底辺では富の、食料の奪い合いが始

まっています。その結果世界を見れば、すでに多くの血が流されて

います。今食べる物がなく、飲む水がないという人に対して

言葉は無力です。世界は豊かになったはずなのに、飢えと暴力

がなくならないのはなぜなのでしょう

世界は益々広が

っているようです。その世界で共通の課題は都市化です。人が都市に集中するのでその入れ物が

必要になります。それがビルです。

私たちはそのビルを管理運営

することを仕事としています。高層ビルとなれば方を超える人が

そこで働き、一つの街を形成しています。ビルでは躯体とそ

の中で移動する手段であるエレベーター、エスカレーター。さ

らに給排水、電気、ガス、空調

と様々の機能が相互に関連して存在します。ビルは現代文明を支える社会基盤なのです。

ビルの発明は人類にとって大

きな事です。都市への人口の集中はビルがあつてできる事

です。日本ではその歴史は百年位しかありません。

世界でも1857年にニュー

ヨークマンハッタンの5階建て

鉄製のビルであるハウトゥビ

ルにオーチスのエレベーターが

付き、初めてビルが実用化された

事です。そして私たちビルメン

テナンスが活動するのは、せい

ぜいその内6、70年です。重力に逆らつて上に伸びるビルには、そのためのエネルギーが必要

です。そのための専用の設備装置があります。

それらを総合的に管理運営する

のが私たちビルメンテナン

スの仕事です。

そして日本の場合、大都市

集中と人口減少が同時に来たと

言えます。世界は人口爆発で、

日本では人口減少なのです。こ

れから先進国は日本と同じ減少

の道を歩んでいくとも言われて

います。世界に先駆けて始まった

人口減少社会に対して、私たちはどのようにしていけば良いのでしょうか。

せん。「保守管理」という仕事の性質上、考え方まで保守的にな

っていないでしょうか。

多くの産業は日々変化し、自

己革新を遂げています。またそ

ういった産業が発展し、生き

残っております。作業のやり方、

工程の組み方、少人数でできる

やり方を考える必要があります。

その中で新しい機械や技術を

を組み入れていかないと時代の

要請には対応できないでしょう。

私たちの仕事はまだ改善の余地があると思います。どのような産業も変化の時があります。私たちビルメンテナン



新年に当たり「やり方を変える」事を今年の課題したいと思います。